立ち寄っている人もいる。

・拠点から徒歩５～６分のところに小学校があり、学校帰りに寄り、宿題して帰る。

(4) 交流拠点の周知度

・開設当初は、拠点の存在自体知らない、施設＝老人ホームの理解だけで、周辺住民から不審がられた。開設から２年が過ぎ、認識は高くなったが、利用者は予想よりも少ない。

・一人暮らし高齢者に対し「寄ったらいい。」というが、実際は立ち寄ることがない。

・「あそこは亀子の施設だから八本町の人は使えん。」と言われたことがある。公民館と同じ機能を持つため、町内公民館と同じように考えている人もおり、隣の町の施設は使わないという意識が働く様子。

(5) 活動のスタンス

・気軽に入って、話ができる環境を住民みんなで作っていきたい。

・世代間の交流を大事にしていきたい。核家族の中、家庭環境から現実をどう位置付けて、お互いを作り上げていくかが重要だと思っている。

(6) 現状の課題及び今後の抱負など（住民より）

【利用促進のために】

・地域拠点が理解されたら、あちこちできるだろうと思っているが、期待したより人が集まらない。利用者を増やしたいが努力が足りないと思っている。

・社協役員会の前に代表者会議を30分している。４団体（公民館・社協・民生委員・福祉協）から意見を出してもらっているが、率直な意見は出てこない。

・平原校区には交流拠点が３つある。３施設の話し合いや情報交換には、社協も参加。

・自主活動がもう少し広がるようにしたいが、どう仕掛けていけるのか思案中。

・よかばい体操が終わった人に対して、座談会・おしゃべり会をしている。

【他団体や施設との協働】

・一緒にすぐにできるわけではない。現在、社協主催にて、敬老ふれあい祭り、徘徊ネットワークを行い、校区公民館では校区運動会が開催され、ＰＴＡ主催にてひらばるフェスタ、市社協主催にて防犯、赤い羽根、グランドゴルフ大会が行われている。

・イベントは今までもやっているからうまくいっているが、支え合いネットワーク活動・安心安全まちづくり等新しいことをやろうとするとうまくいかない。災害や老人訪問見守り活動をやりたいがうまくいかない。

・行政側・市の社協・われわれとコミュニケーションがとれていないことがある。公民館の上部、民生委員との隔たりがある。以前からの流れを克服することが大変である。

・要援護者情報開示について、社協には情報はまわされず、災害時に対応できない。

・無縁社会を克服した町としたいが、無縁社会・限界部落をどうするかの認識に違いがあり、意見が合わない。

・スタッフにもう少し仲介してもらいたい。

4　運営側職員

(1) 地域交流をもつ事業を始めた経緯（きっかけ）

平成20年６月開設。併設なし。市が地域交流拠点を作るにあたり、古民家を改修し、

運営を隣県のＮＰＯ法人コレクティブに委託する。本法人は隣県にて小規模多機能型居宅介護や認知症高齢者グループホーム等と併設して地域交流スペースを設ける、地域の縁がわづくりの活動を積極的に行っている。

(2) 目　的

・縁側機能＋相談機能（社会福祉士が２名いる、つなげることはできる）をもっている。
・近隣とは普通のご近所付き合いをしたいと思っている。公民館にも加入し、地域の行事に呼んでもらい、運動会や公民館の旅行にも行ったりしている。

(3) 主な活動

①よかば～い体操：市の委託事業
②健康福祉相談：法人事業、市の委託事業
③まちづくり出前講座：市の委託事業
④子育てママさん teatime：法人事業
⑤子どもの居場所：法人事業、住民活動
⑥子ども預かり：法人事業
⑦フレンドシップ：市の委託事業。生活保護家庭の中学３年生対象に、受験勉強支援。市の委託事業。７名に対し、大学生・社会人・主婦がボランティアで教えている。
⑧誰でも勉強会：法人事業、住民活動。
⑨クッキーを作ろう：法人事業
⑩酒の肴料理教室：法人事業。参加者４～５名
⑪認知症サポーター養成講座：法人事業
⑫地域交流会：法人事業
⑬井戸端会議：法人事業

(4) 特徴的な点

・併設事業所はなく、交流拠点のみ。単体のため、「入ってきやすいよ」と言ってもらえる。
・本法人は、市内で他の介護事業を行っていないため、予防事業から法人の介護サービスにつながる人はいない。また、同理由により、具体的な解決策を持っていないため、地域を耕すことを重視せざるを得ない。
・本拠点によって、周辺住民が、地域福祉に関しておぼろげながら、きづきはじめた。

(5) 主な収入源（運営収支の状況など）

市の委託事業

(6) 課題及び今後の展開（職員より）

地域の人がどう主体的に、この交流拠点に関わってくれるかが主題である。住民と一緒に考えたいが、職員が出すぎてもいけないと思っており、黒子でありたいと考えて、どうつなぐ役割ができるか模索している。

7　街かど福祉人の駅　よらんかん（大牟田校区）　調査実施日　2011年11月2日

1　ヒアリング対象者：NPO法人代表者兼管理者　2名

2　運営母体：築町商店街振興組合　　ＮＰＯ法人よかよか

3　運営側職員

(1) 地域交流をもつ事業を始めた経緯（きっかけ）

商店街振興組合は競売となった空き店舗を買ってから、福祉的なものを作り上げようと決め、NPOが応募し運営するようになった。現在商店街振興組合から賃貸。通所介護事業や宅老所等をやってきたが、2000年から商店街のバリアフリー工事を行い信頼を得て、2001年10月に現交流拠点を開設、商店・交流スペース・通所等スペースを設置した。

(2) 目　的

高齢者が安心して出かける場所づくり

(3) 主な活動

・パソコン教室、音楽で脳トレ＆リフレッシュ講座、うた声喫茶、いきいきふれ愛あきない祭会議、おりがみ教室、英会話教室、いきいき健康ウォーキング、映画を語る会シュガータイム、初心者ブログ教室、サンキューヘルパー講座

(4) 特徴的な点

・商店街には公民館のような自治組織がない。校区社協は目立っていない。民生委員はいるが、連携を取っていない状態。

・交通が便利なので遠くから来る高齢者もいる。待ち合わせの場所にもなっている。

・バスで通っている方が多く、「うた声喫茶」に参加する方のうち、夕方に弁当を食べた後、家まで送る参加者が5～6名にいる。

・NPO理事長は授産施設とかかわっているので、授産品等を販売している。

・もちづき等の活動には聴覚障害者は手伝って、もち作りをしている。

(5) 工夫している点

・改装を行った（畳→テーブル、自動ドア、トイレ、床の取り換え等）

・宅老所の利用者は逆デイ、お茶や買い物などで利用している。

・施設への出前商店街などの活動により商店街にお金が落ちる努力している。

・商店街で店を運営している高齢者に野菜と米（重いもの）等を配送している。

・登録されている方には定期的にお知らせている。拠点前に通った方にチラシを配る。

・福祉相談や困っている方がいれば、積極的に対応している。

(6) 主な収入源（運営収支の状況など）

・宅老所の営利とリンクし、一部補っている。

・年間3回（3月・5月・・年末）もちづきの販売（30～40万円）の収益

・年間2回（8月・10月）ビアパーティの開催

・アンテナショップや食事・喫茶からの収益

(7) 課題及び今後の展開（職員より）

・赤字運営で、市からの委託事業があれば受ける姿勢であるが、拠点の設置等を考えると、

よかば～い体操のような教室を受けられない現実がある。教室的な事業以外なものを考えなければならない。

・参加人数は現在よりも10倍ぐらい拡大したい。

・校区にいる民生委員との連携を取れていないので、今後、市役所を通して連携を取り、拠点の存在についての認識を広げるように努力する。

8　みのりの里いちの（玉川校区）　　調査実施日　2011年1月24日

1　ヒアリング対象者：管理者職員（1名）

2　運営母体：医療法人　静光園　第二病院

3　運営側職員

(1) 目　的

近くにある公民館が古くなって、使い勝手が悪い、サークルの場として利用されている。

(2) 主な活動

・詩吟サークル：週1回程度、メンバー10人ほど（近所に住んでいる方が多い、車や徒歩で通っている。大牟田市内の方は1名）

・2011年2月から横ばい体操を始まる

(3) 特徴的な点

・所在地は農業を中心とする地域である。

・小規模多機能の登録者数10名。うち5～6名は玉川校区在住。緊急利用する方が多い。平均要介護度弱。元気な利用者が多いので、配食で訪問するケースが多い。

(4) 工夫している点

・拠点は地域資源として、自治会会長や民生委員が認識していて、利用ルールなどについて住民たちが決める方針

(5) 課題及び今後の展開（職員より）

・2011年2月から、横ばい体操が始まるが、メンバーの集まりに課題あり。

(6) その他

・所在地は農業を中心する地域である。現在の利用者が少ないが、将来的に農繁忙期に家族介護を中心する高齢者の一時利用の増加。（市の職員より）

９　やぶつばき地域交流センター（天道校区＆駿馬北校区）

調査実施日　2011 年 1 月 24 日

１　ヒアリング対象者：施設長・副施設長・生活相談員（3 名）

２　運営母体：社会福祉法人　木犀会

３　運営側職員

(1) 地域交流をもつ事業を始めた経緯（きっかけ）

閉じこもり、無縁社会の進みにより集まりの場所が必要と考え開設した。

(2) 主な活動

・いきいきサロン、よかばい体操、H23 年 2 月から歌声喫茶を取り組む予定

(3) 特徴的な点

・当拠点は母体施設を改築して開設されたもの。

・2 つの校区の境目にあり、2 つの校区から利用者が集まれる。

・2 つの校区の関係が良好であり、共同活動ができる。

・天道校区の各活動は一つの運営協議会で連携を取れているが、駿馬北校区は各自で活動しており、今後運営協議会の形成が期待している。

(4) 工夫している点

・新拠点の開設にあたって、地域の役員・事業所の職員・設計士で計 13 ～ 14 名でワークショープを行い、拠点の使い方など話し合う。広さ、活動内容等で新旧拠点を使い分けするとか

(5) 主な収入源（運営収支の状況など）

・委託事業、横ばい体操

(6) 課題及び今後の展開（職員より）

・キーパーソンを通じて、施設と住民の信頼関係の橋渡しになり、地域を支えていく

・新しく整備予定の拠点と隣接なので役割分担は課題になる。

・新拠点では 3 世帯交流事業を実施、子供向きの図書コーナーの設置等を考えている。

(7) その他

・拠点の担当者は固定していない、職員間の連携でサポートしている。

・施設内に介護予防相談センターの窓口があり、地域住民の相談に対応している。

１０　サロン・すいせん（駿馬南校区）　調査実施日　2011 年 1 月 24 日

１　ヒアリング対象者：事務課長 1 名、管理職員 1 名

２　運営母体：財団法人　大牟田医療協会

３　運営側職員

(1) 地域交流をもつ事業を始めた経緯（きっかけ）

公益財団として９つの地域貢献事業を実施しており、ヘルパーステーション・居宅介護支援事業所・グループホーム等を管轄している。病院の患者が在宅に帰らない場合、地域に帰る場を提供する目的もある。病院を中心して事業を開設した。

(2) 目的

地域貢献・退院患者の居場所づくり

(3) 主な活動

・病院の看護婦や職員は講師になり、健康教室を定期的に実施。

・法人自主事業としてリハビリ講座を実施。

・民生委員の会議に場所を提供。

・地域の行事（防災訓練⇒避難場所として）に参加。

・地域住民の活動として、踊りのサロンとダンスのサロン／週１回　５名程度

(4) 特徴的な点

・地域交流拠点・グループホーム・高齢者向けの住宅は母体の南大牟田病院と隣接。

・高齢化率は大牟田市２番目であり、ボランティアの高齢化、一人暮らしや老夫婦のみ世帯が増加。老人会を中心として安否確認の活動が盛ん。

(5) 工夫している点

・健康啓発・介護予防に関することを中心として活動している。

(6) 課題及び今後の展開（職員より）

・OPEN してから２年、知名度度はまだ低い。

・高齢者向けの住宅は一人暮らしのみで入居率は 50%。拠点で実施している講座など、入居者に声をかけるが、参加する人が少ない。

・病院のやグループホームのスタッフは自分の業務で精いっぱいで、地域交流拠点の活動は限界がある。立地はグループホームと駐車場を挟んでいる状態で、グループホームの利用者との交流はあまりなく、グループホームで活動しているボランティアとの交流もない。

・人口増の見込みがなく、またコミュニティの崩壊の恐れがあるため、今後には、サロンとかの利用回数を増やすこと、地域を起こす様の役割を果たす（担う）専従スタッフの雇用を考えている。

・過去、駅馬南校区には、健康を守るためのボランティアリーダーを一時的に実践した事があったが、現在は残っていない。今後は拠点を中心して、再構築し、ネットワークを作ればと考えている。

(7) その他

・南大牟田病院は療養病床 68 床、一般病床 80 床、MSW は一人、毎月病院からの退院者数 20 ～ 30 名程度。病院の患者が退院後、半数以上に自宅に戻り、他の人の行く先は施設や他の病院等。

11　ほほ笑みガーデン（天領校区）　　調査実施日　2011年1月24日

1　ヒアリング対象者：代表取締役　（1名）

2　運営母体：株式会社　あすか介護サービス

3　運営側職員

(1) 地域交流をもつ事業を始めた経緯（きっかけ）

小規模多機能型居宅介護施設の開設にあたって、地域交流施設との併設は義務付けされている。以前、訪問介護事業所と居宅介護支援事業所を運営するときには地域を意識しておらず地域住と連携がなかったが、小規模多機能型居宅介護施設の開設をきっかけに必要だと感じた。所在地域には公民館がないので、住民が利用できる交流の場が必要だった。OPENしてから1年間半経過。

(2) 目的

認知症の理解を深める地域づくり。まちづくりの一つの貢献として、認知症の方々や一人暮らしの高齢者の支えと繋がると考えている。

(3) 主な活動

・自主事業として、サロン川尻：月に2回

・地域支援事業（補助事業）ほほえみサロン⇒（年間100万円補助金）月1回

・地域のサークル：手芸サークル

(4) 特徴的な点

天領校区はH22年4月に元川尻校区と諏訪校区が合併したもの。人の繋がりが薄い。元川尻校区は高齢化率が高く、諏訪地区は低い。古い地域だが高齢化は進んでいる。

(5) 工夫している点

・OPEN当初は事業説明会を開き（約15名住民）、開設イベントを行ったが、地域交流拠点への理解が困難だった。地域行事（校区運動会・徘徊模擬訓練・人町心ミーティング）等を通じて、認知が高まるようになった。地域の民生委員との交流を図って、認知度が高める事を図った。

(6) 主な収入源（運営収支の状況など）

・地域支援事業（補助事業）

・介護保険サービスの事業

(7) 課題及び今後の展開（職員より）

・事業所周辺には他のデイサービスなどがある。小規模多機能として、利用者確保が困難。現在の登録者数10名、平均要介護度1.5以下。

・地域交流拠点のサロン運営は民生委員に移行する予定。元民協の会長はキーパーソン。

・事業所の役割は事務局としてサポートし、トレーナーの派遣とかを考えている。

(8) その他

近所にいる子供は拠点に遊びに来るようになっている。小学校に近いから、今後小学校の生徒との交流が増加する見込みがある。

Ⅲ．事例編

ー福岡県大牟田市・地域交流施設ー

目　次（事例編）

No1. アザレア ・・01
No2. てつお ・・07
No3. 集いの場　わたぜ ・・13
No4. 地域交流施設　かめざき ・・19
No5. よしの ・・25
No6. 和 ・・31
No7. ふれあいセンター尾尻 ・・37
No8. コムーネ ・・43
No9. 済生会大牟田地域支援センター・・49
No10. 地域交流施設集いの場　くぶき・・55
No11. 恵愛の里 ・・61
No12. 地域交流施設　いろは ・・67
No13. あじさい地域交流広場 ・・73
No14. 延寿苑 ・・79
No15. 地域サポートネット　たかとり・・85
No16. くぬぎ ・・91
No17. 地域の縁がわ　ひらばる ・・97
No18. 地域交流センター　たんぽぽ ・・103
No19. 地域交流センター　しらかわ ・・109
No20. じゃんぐるジム ・・115
No21. 地域交流プラザ　すまいる ・・121
No22. 街かど福祉人の駅　よらんかん・・127
No23. 地域交流センター　医師会 ・・133
No24. 地域交流施設　春日 ・・139
No25. リビングアエル ・・145
No26. かたらいの森　ひばりヶ丘 ・・151
No27. さくら並木ささはら ・・157
No28. いこい ・・163
No29. やぶつばき地域交流センター・・169
No30. きてみてテラス ・・175
No31. サロン・すいせん ・・181
No32. 小規模多機能ホーム　槐 ・・187
No33. 美さとひろば ・・193
No34. あそぼーい ・・199
No35. 地域交流プラザ　コパン ・・205
No36. ほほ笑みガーデン ・・211

No.01

校区	手鎌校区	交流拠点名	アザレア
		法人名	(医)親仁会

【施設概要】

1.	開設年月	平成20年2月開設		
2.	整備手法	新規建設		
	整備費用(交流拠点にかかる額)	総額:2800万円(小規模含むうち補助金額500万)		
	敷地内施設の有無(小規模多機能、グループホーム、訪問介護、居宅支援事業所、喫茶など)			有
	有の場合:交流拠点と同一施設内にあるもの	小規模多機能		
	地区住民が訪問しやすい立地・建物と思うか	訪れやすいと思う		
	その理由:道路に面して中も見えるから			
3.	運営に関わる主なスタッフ数	3名		
4.	主なスタッフの勤務状況		保有資格	兼務先
	1人目	兼任	介護福祉士・ケアマネとの兼務	小規模多機能との兼務
	2人目	兼任	介護福祉士との兼務	小規模多機能との兼務
	3人目	兼任	看護師・ケアマネとの兼務	小規模多機能との兼務
5.	平成21年度の運営費	収入:0万円		支出:0万円
	交流拠点の家賃	家賃なし		

【事業内容・運営形態】

6.	総事業数(回)	実施回数(回)	参加者総数(人)	市委託, 法人主体, 住民主体, 横断事業の割合
	3	35	288	0:1:0:0
	事前登録の必要性(必要:不必要)		高齢者, 子世帯, 多世帯の割合	参加者の流動性 固定, ほぼ固定, 流動
	1:2		1:0:2	0:3:0
	よかば一い体操に加えて、法人独自の介護予防教室や認知症等についての勉強会が定期的に開催されている。高齢者向けの事業が大半を占めており、参加者はほぼ固定化されている。1回あたりの参会者数は10名前後となっている。			
7.	開館方法	事業や活動の有無にかかわらず一定時間、オープンしている。		
	開館曜日	月～土(日休み・しかしいつも空いている)	開館時間	10:00～17:00
	開館時の職員の常駐場所	併設施設		
	毎月の延利用者数	40名	利用者数の増減	利用者数は横ばい
	大牟田市委託事業(よかば～い体操、歯にかみ教室)の実施状況			実施していない
	大牟田市委託事業の修了者向け講座の有無			無
	名称)			
	独自の交流拠点事業			実施している
	対象者)高齢者向け		参加形式)事前登録・登録不要の双方ともあり	
	住民による校区活動やサークル活動時の利用形態			利用実績なし
	不定期の利用回数			
	常時運営している有料のレストランや食事処			無
	提供内容		利用者数	
	お茶や雑談など地域の縁側機能として立ち寄る場			無
	提供内容		利用者数	
	ボランティアの参加の有無	無	延ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ数	
	送迎の有無			有
	地区住民が利用可能な無料駐車場(隣接地の駐車場等を含む)			無

【地区住民参加】

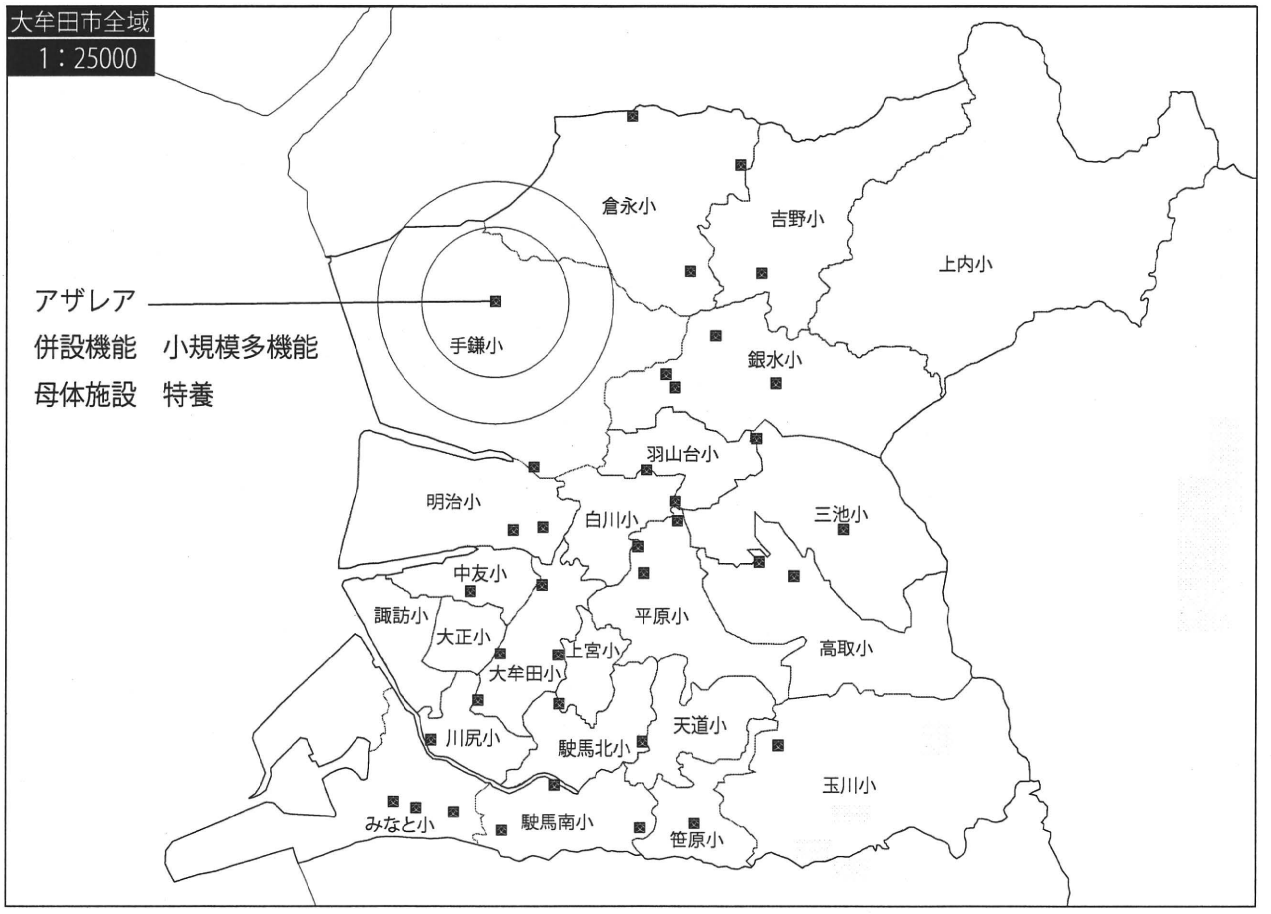
9.	他の地域交流施設と比較した場合の本施設の校区住民に対する認知度			
	37の地域交流施設の中では、校区住民にあまり知られていない交流拠点だと思う(小規模は知られているが、アザレアはあまり知られていない)			
10.	広報誌(A4　1枚程度のものも含む)の作成の有無		作成している	
	各種拠点(公民館、小学校、校区社協等)を通して加入・対象世帯に回覧(小規模の分の中に入れている)			
11.	地域交流施設の運営に関わる住民側キーパーソン、リーダー		無	
	人数		校区活動経験	
	校区での立場			
	無の場合　キーパーソンになりうる可能性がある人		地域の公民館の役員等	
12.	地域交流施設と校区組織(公民館、民児委員、老人クラブ、校区社協等)との連携状況			
	37の地域交流施設のなかでは、連携ができている交流拠点だと思う			
13.	地域交流施設として校区活動等に参加していること			
	公民館の老人会、サロン等に職員が呼ばれ、体操等をしている。			
14.	校区の資源マップ作成の有無		作成していない	
15.	校区住民に運営にかかわってもらうためにしていること			
	併設の小規模多機能等の運営推進会議に住民側が入り交流施設について話しあう。			
16.	地域交流施設での活動をより小地域で展開するための小サロン等の設置について			
	設置の有無	検討に至っていない。		
	小サロンの数	0件	場所	
	開催数		運営主体	

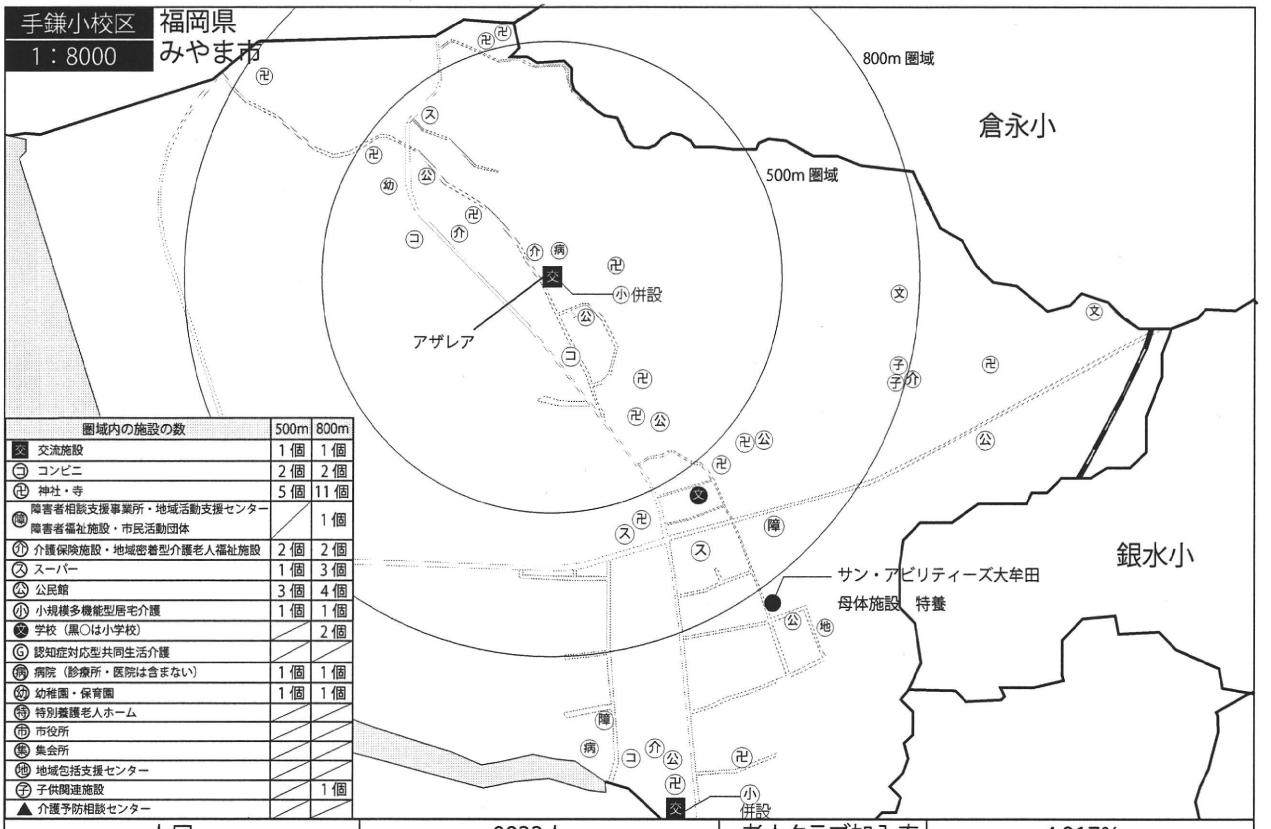
【地区住民のポテンシャル】

17.	地区校区の住民活動について	
	22校区のなかでは公民館、民生児童委員、校区社協などの活動が活発である	
18.	校区の住民活動について	
	22校区のなかで公民館、民生・児童委員、校区社協の横の連携がある	
19.	地域の互助機能を活用して校区内住民へのケアを行った事があるか	有
	有の場合:どのような手順を踏んで支援に結びつけましたか 悪徳商法の事を地域包括センターに連絡し、訪問などをしてもらった。予防教室の利用者から支援を依頼されたが、話をきき、包括へ紹介した。	

【地域交流施設と法人のサービス向上・経営改善】

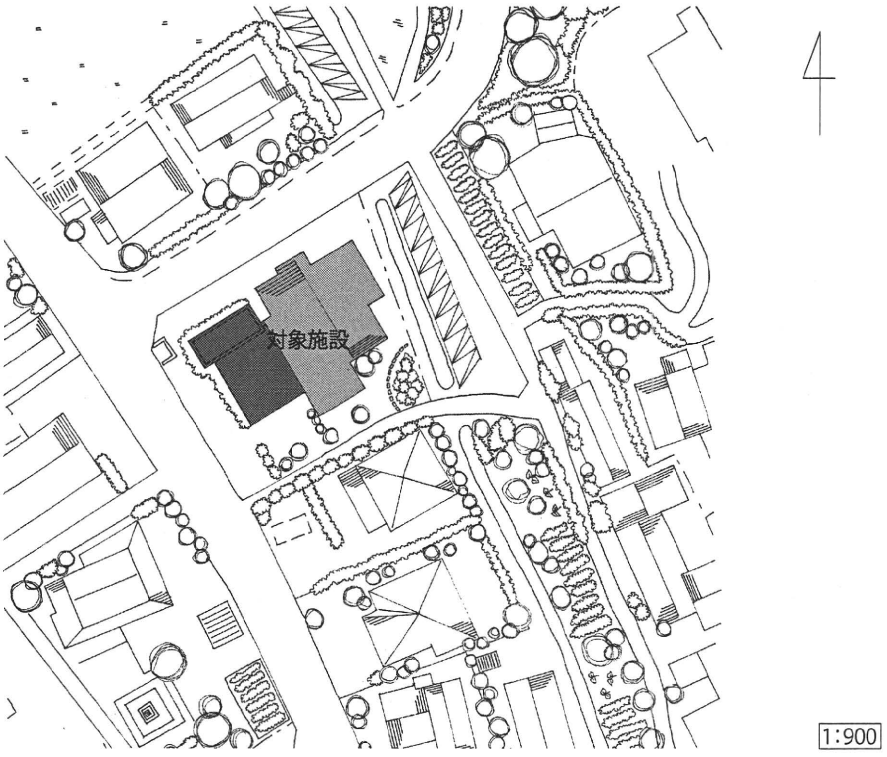
20.	問19のような高齢者が介護保険を利用することになりケアプラン作成をする際に、地域住民による互助を意識的に組み込んだ事例(朝は民生委員で声かけ、日曜日の昼食準備等)はあるか		
	無	有の場合	
21.	地域交流施設での事業に関わることは法人のサービス向上や長期的な経営改善に寄与するか		
	サービス向上、長期的な経営改善、双方に寄与すると思う。		
22.	地域交流施設の事業に対する法人トップの考えや方針について		
	必要性は認識しているが積極的に取り組んでいるとは言い難いと思う。		
23.	地域交流施設に対する市役所の働きかけについての要望		
	未回答		
24.	地域交流施設に対する市社協・校区社協の働きかけについての要望		
	未回答		



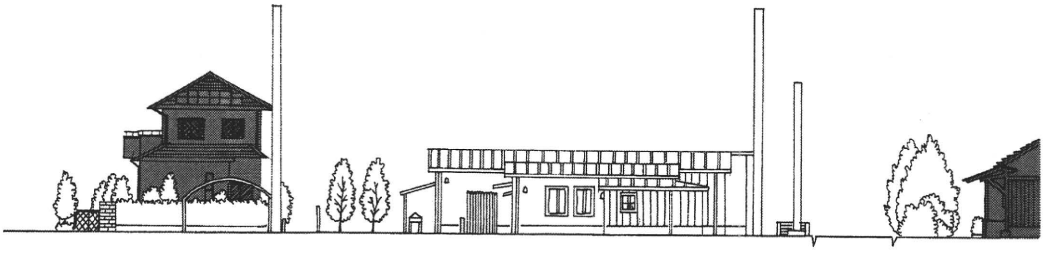


圏域内の施設の数	500m	800m
交 交流施設	1 個	1 個
コ コンビニ	2 個	2 個
卍 神社・寺	5 個	11 個
障 障害者相談支援事業所・地域活動支援センター 障害者福祉施設・市民活動団体		1 個
介 介護保険施設・地域密着型介護老人福祉施設	2 個	2 個
ス スーパー	1 個	3 個
公 公民館	3 個	4 個
小 小規模多機能型居宅介護	1 個	1 個
文 学校（黒〇は小学校）		2 個
G 認知症対応型共同生活介護		
病 病院（診療所・医院は含まない）	1 個	1 個
幼 幼稚園・保育園	1 個	1 個
特 特別養護老人ホーム		
市 市役所		
集 集会所		
地 地域包括支援センター		
子 子供関連施設		1 個
▲ 介護予防相談センター		

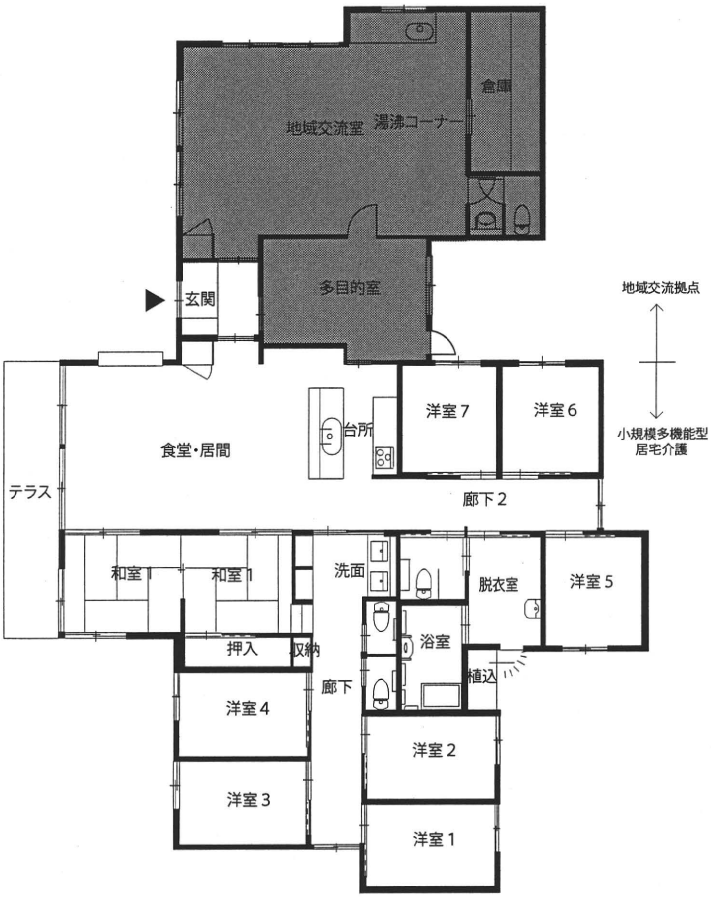
人口	9932人	老人クラブ加入率	4.917%
後期高齢者数	2461人	公民館加入率	49.7%
単身高齢者世帯数	613人	投票率	55.9%

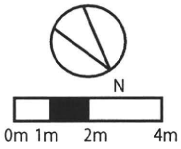


アザレア　配置図

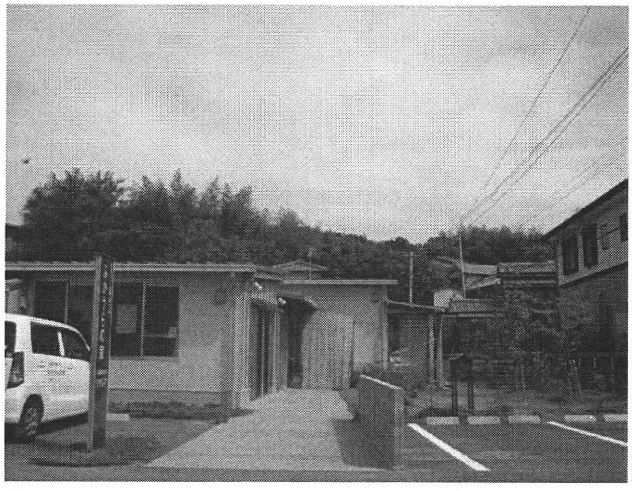


アザレア　南東側立面図　1/400

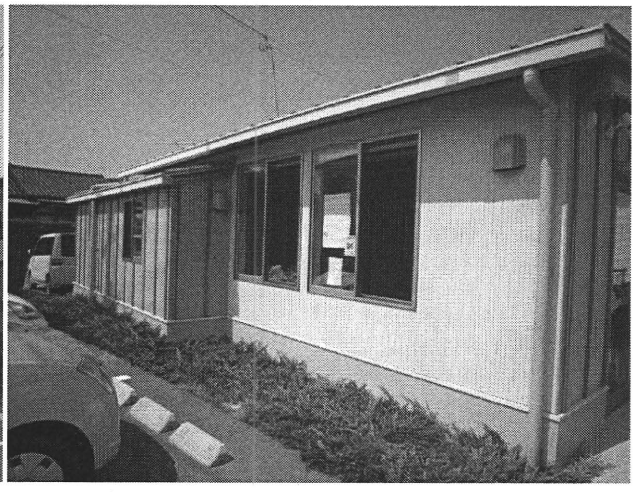




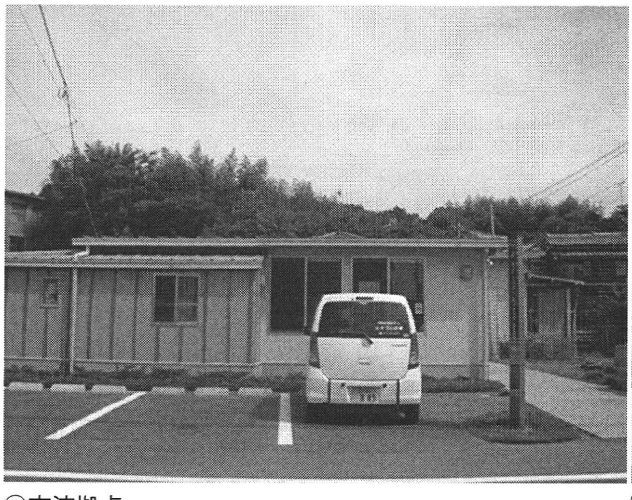
アザレア平面図　1/200　　地域交流スペース面積：54.36㎡



①入口



②交流拠点（手前）



③交流拠点

④小規模多機能

⑤周辺写真

⑥周辺写真

No.02

校区	手鎌校区	交流拠点名	てつお
		法人名	(医)寿心会　木村内科医院

【施設概要】

1.	開設年月	平成19年11月開設		
2.	整備手法	新規建設		
	整備費用(交流拠点にかかる額)	総額:　未回答　円(うち補助金額　未回答　円)		
	敷地内施設の有無(小規模多機能、グループホーム、訪問介護、居宅支援事業所、喫茶など)			有
	有の場合:交流拠点と同一施設内にあるもの		小規模多機能	
	地区住民が訪問しやすい立地・建物と思うか		訪れにくいと思う	
	その理由:敷地内で玄関が離れた所にある為			
3.	運営に関わる主なスタッフ数	未回答		
4.	主なスタッフの勤務状況		保有資格	兼務先
	1人目	兼任	介護福祉士	小規模多機能との兼務
	2人目	兼任	ヘルパー2級	小規模多機能との兼務
	3人目	兼任	看護師	小規模多機能との兼務
5.	平成21年度の運営費		収入:144.9万円	支出:9.6万円
	交流拠点の家賃		家賃なし	

【事業内容・運営形態】

6.	総事業数(回)	実施回数(回)	参加者総数(人)	市委託, 法人主体, 住民主体, 横断事業の割合
	6	35	951	1:0:5:0
	事前登録の必要性(必要:不必要)		高齢者, 子世帯, 多世帯の割合	参加者の流動性 固定, ほぼ固定, 流動
	5:1		5:0:1	3:2:1
	よかば一い体操は市からの委託事業に加えて住民主体の事業も行われている。その他にもハーモニカ教室や踊り教室、カラオケを楽しむ会など住民主体の活動が行われている。また、地域の方のより合いにも利用され公民館としての機能も果たしている。 事業内容は高齢者向けが大半を占め、参加者は固定もしくはほぼ固定されている。各事業は週1回程度の割合で開催され、1回あたりの参会者数は10名前後である。			
7.	開館方法	事業や活動がある時のみオープン。それ以外は施錠。必要に応じて開ける。		
	開館曜日		開館時間	
	開館時の職員の常駐場所			
8.	毎月の延利用者数	約80名	利用者数増減	利用者数は横ばい
	大牟田市委託事業(よかば～い体操、歯にかみ教室)の実施状況			実施していない
	大牟田市委託事業の修了者向け講座の有無			有
	名称)よかば～い体操　(インストラクターと一緒にスキルアップに努めている)			
	独自の交流拠点事業			実施している
	対象者)高齢者向け		参加形式)事前登録制、事前登録不要の双方ともあり	
	住民による校区活動やサークル活動時の利用形態			事前予約が必要・空いていれば利用可
	不定期の利用回数			1回/月
	常時運営している有料のレストランや食事処			無
	提供内容		利用者数	
	お茶や雑談など地域の縁側機能として立ち寄る場			有
	提供内容	未回答	利用者数	未回答
	ボランティアの参加の有無	無	延ボランティア数	
	送迎の有無			無
	地区住民が利用可能な無料駐車場(隣接地の駐車場等を含む)			有

【地区住民参加】

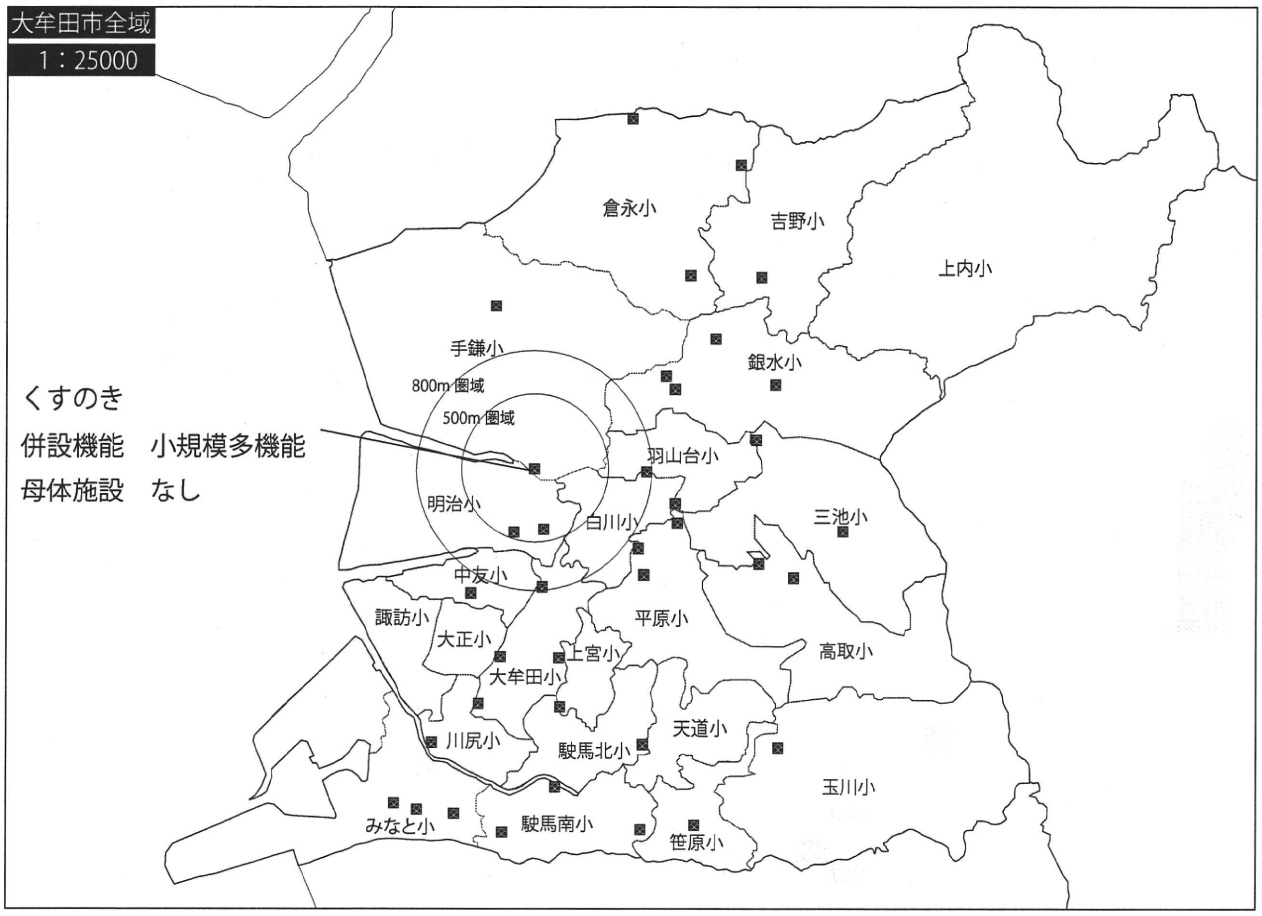
9.	他の地域交流施設と比較した場合の本施設の校区住民に対する認知度			
	37の地域交流施設のなかでは、校区住民にあまり知られていない交流拠点だと思う			
10.	広報誌（A4　1枚程度のものも含む）の作成の有無		作成していない	
11.	地域交流施設の運営に関わる住民側キーパーソン、リーダー		無	
	人数		校区活動経験	
	校区での立場			
	無の場合　キーパーソンになりうる可能性がある人			
12.	地域交流施設と校区組織（公民館、民児委員、老人クラブ、校区社協等）との連携状況			
	37の地域交流施設のなかでは、連携があまりできていない交流拠点だと思う			
13.	地域交流施設として校区活動等に参加していること			
	リサイクル当番のお手伝い			
14.	校区の資源マップ作成の有無		作成していない	
15.	校区住民に運営にかかわってもらうためにしていること			
	併設の小規模多機能等の運営推進会議に住民側が入り交流施設について話しあう。			
16.	地域交流施設での活動をより小地域で展開するための小サロン等の設置について			
	設置の有無	検討に至っていない		
	小サロンの数		場所	
	開催数		運営主体	

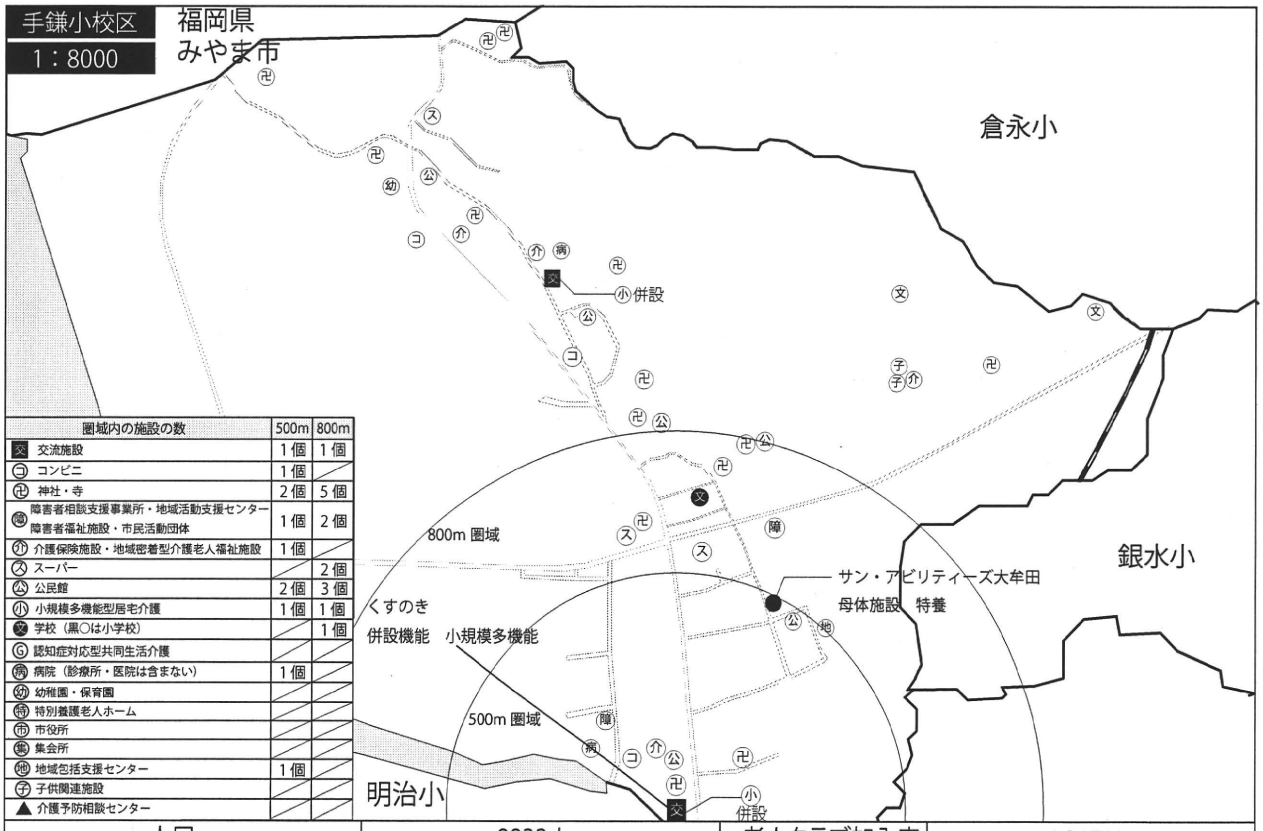
【地区住民のポテンシャル】

17.	地区校区の住民活動について	
	22校区のなかでは公民館、民生児童委員、校区社協などの活動が活発である	
18.	校区の住民活動について	
	22校区のなかで公民館、民生・児童委員、校区社協の横の連携がある	
19.	地域の互助機能を活用して校区内住民へのケアを行った事があるか	無

【地域交流施設と法人のサービス向上・経営改善】

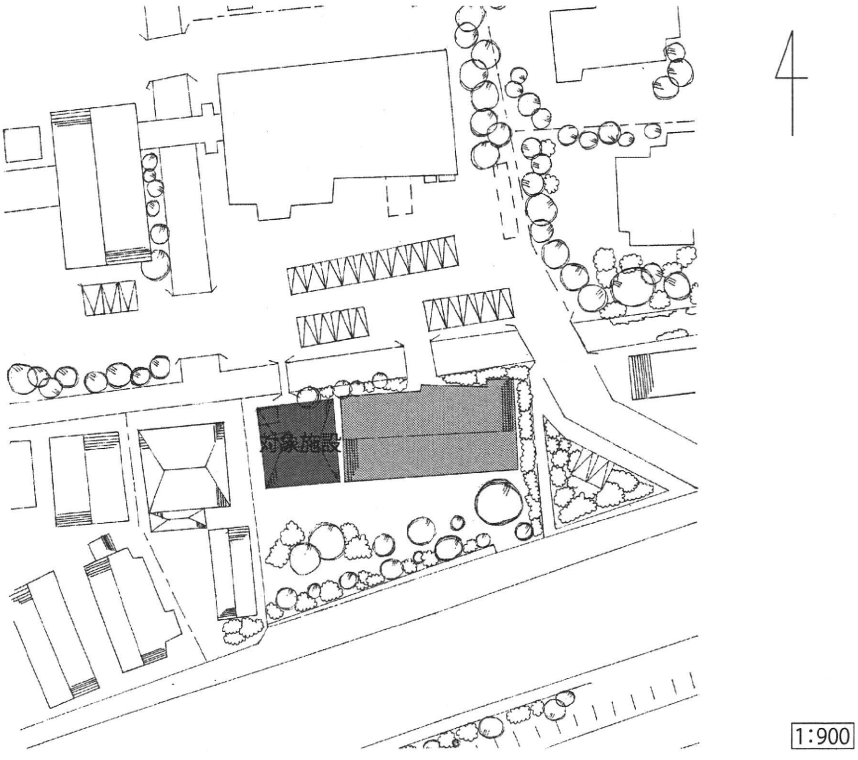
20.	問19のような高齢者が介護保険を利用することになりケアプラン作成をする際に、地域住民による互助を意識的に組み込んだ事例（朝は民生委員で声かけ、日曜日の昼食準備等）はあるか		
	無	有の場合	
21.	地域交流施設での事業に関わることは法人のサービス向上や長期的な経営改善に寄与するか		
	サービス向上、長期的な経営改善、双方に寄与すると思う。		
22.	地域交流施設の事業に対する法人トップの考えや方針について		
	必要性は認識しているが積極的に取り組んでいるとは言い難いと思う。		
23.	地域交流施設に対する市役所の働きかけについての要望		
	小規模施設に併設している為、収入面が厳しい時に交流施設までは人員が配置できない状態。H22,4頃から少しスタッフの余裕がでてきましたが、最初から求められても無理な気がします。		
24.	地域交流施設に対する市社協・校区社協の働きかけについての要望		
	市社協や校区社協に対して私達の方からの働きかけはなく、相手方からの働きかけもありません 今後の課題と考えます。徘徊模擬訓練等の交流はできています。		



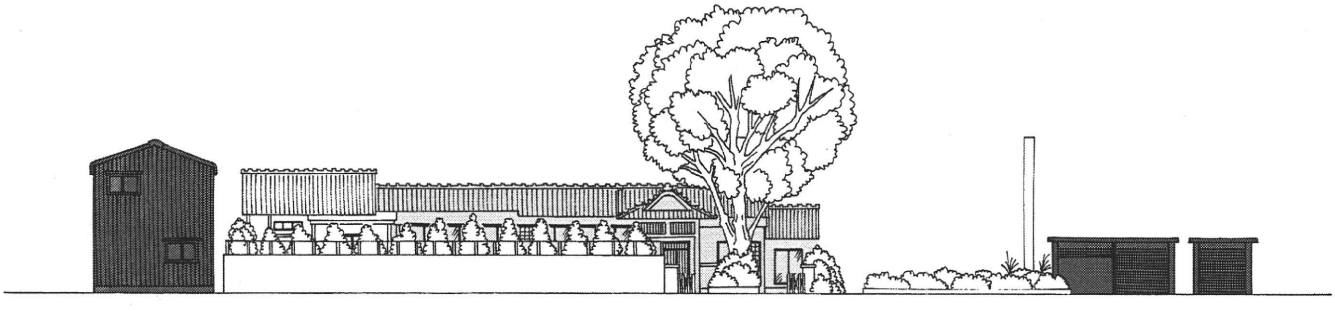


圏域内の施設の数	500m	800m
交 交流施設	1個	1個
コ コンビニ	1個	
卍 神社・寺	2個	5個
障 障害者相談支援事業所・地域活動支援センター 障害者福祉施設・市民活動団体	1個	2個
介 介護保険施設・地域密着型介護老人福祉施設	1個	
ス スーパー		2個
公 公民館	2個	3個
小 小規模多機能型居宅介護	1個	1個
文 学校（黒〇は小学校）		1個
G 認知症対応型共同生活介護		
病 病院（診療所・医院は含まない）	1個	
幼 幼稚園・保育園		
特 特別養護老人ホーム		
市 市役所		
集 集会所		
地 地域包括支援センター	1個	
子 子供関連施設		
▲ 介護予防相談センター		

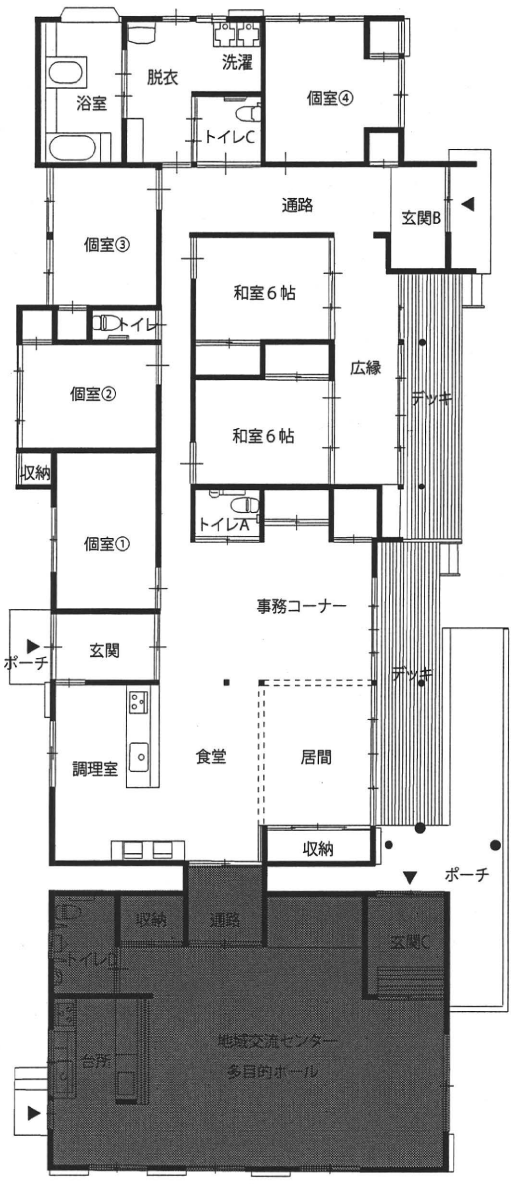
人口	9932人	老人クラブ加入率	4.917%
65歳以上の高齢者数	2461人	公民館加入率	49.7%
単身高齢者世帯数	613人	投票率	55.09%



くすのき　配置図

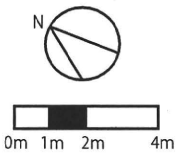


くすのき　南側立面図　1/400



小規模多機能型
居宅介護

地域交流拠点



くすのき平面図　1/200　　地域交流スペース面積：78.70㎡